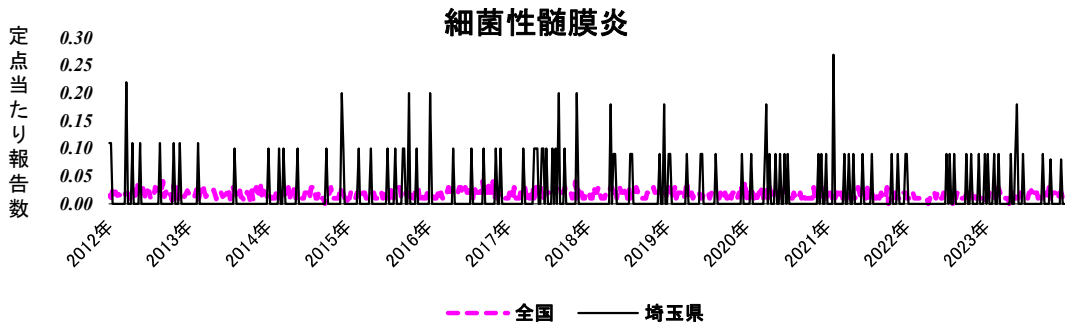


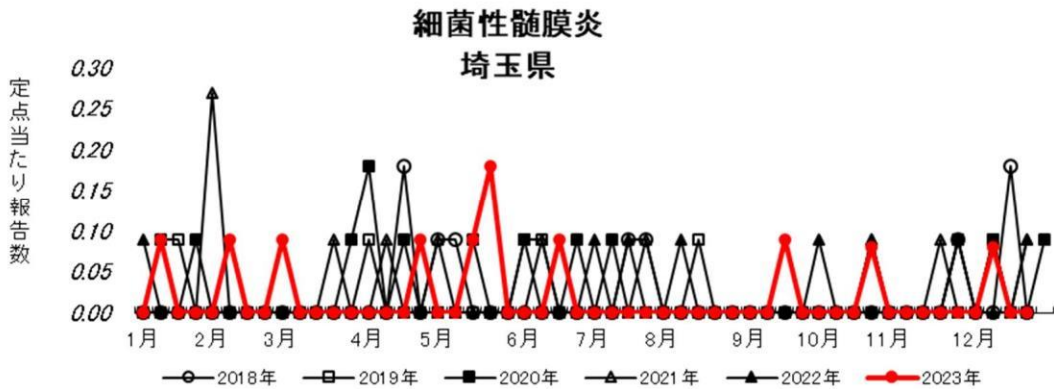
## 5 基幹定点把握対象疾患の動向

### 1) 細菌性髄膜炎

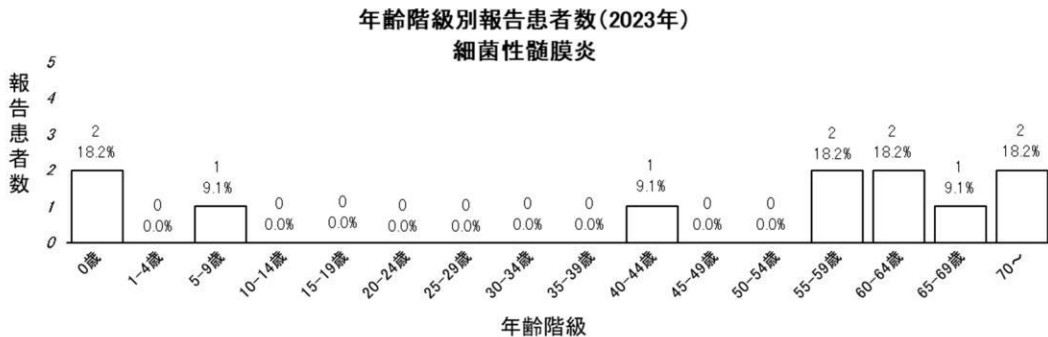
2023年第1週～52週の累積報告患者数は11人であった。定点当たり報告患者総数0.98は前年と同水準であった。報告は散発的で、1人以上の報告があった週が10週あった。年齢階級別では、55歳以上が7人で63.6%であった。



図Ⅱ-14-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：細菌性髄膜炎）



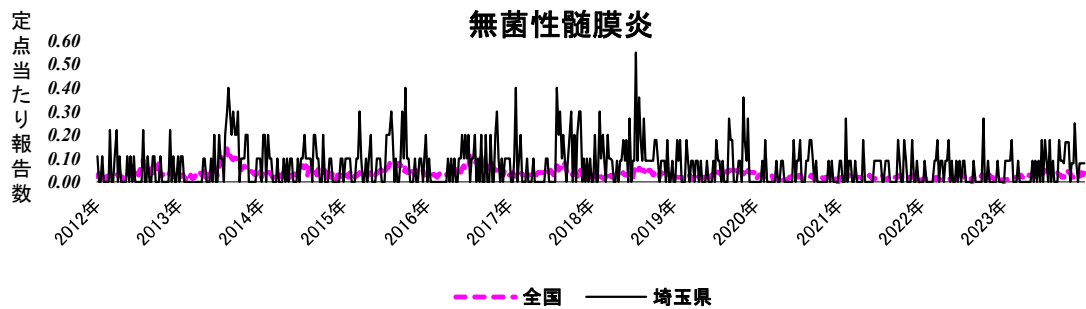
図Ⅱ-14-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：細菌性髄膜炎）



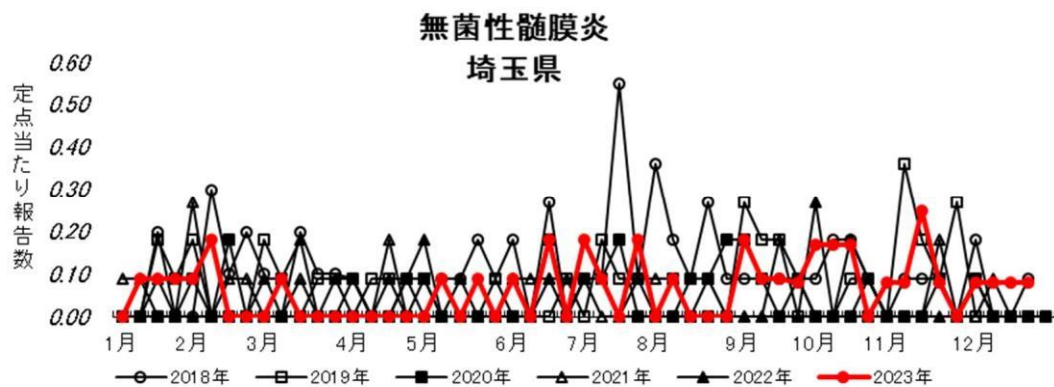
図Ⅱ-14-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：細菌性髄膜炎）

## 2) 無菌性髄膜炎

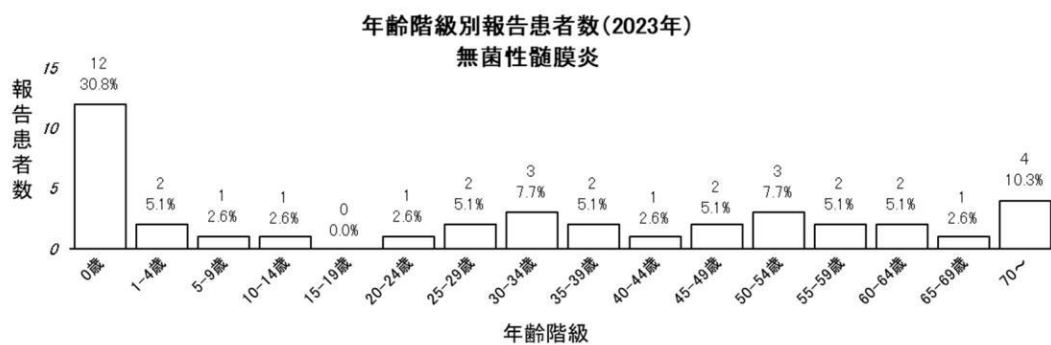
2023年第1週～52週の累積報告患者数は39人であった。定点当たり報告患者総数3.48は前年と比べ大きく増加した。報告は年間を通して断続的に観察され、52週のうち29週で1人以上の報告があった。定点当たり報告数の最大値は、第46週(11/13～19)の0.25であった。年齢階級別では20歳未満が41.0%、20～70歳未満が48.7%、70歳以上が10.3%であった。また、0歳が12人で最も多かった。



図Ⅱ-15-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：無菌性髄膜炎）



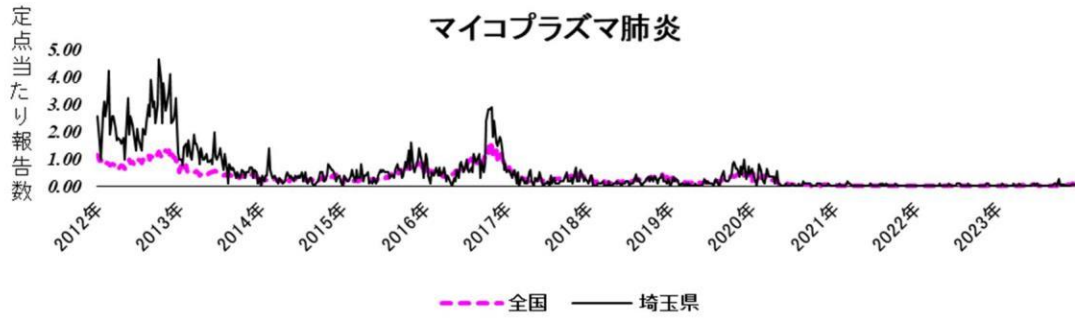
図Ⅱ-15-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：無菌性髄膜炎）



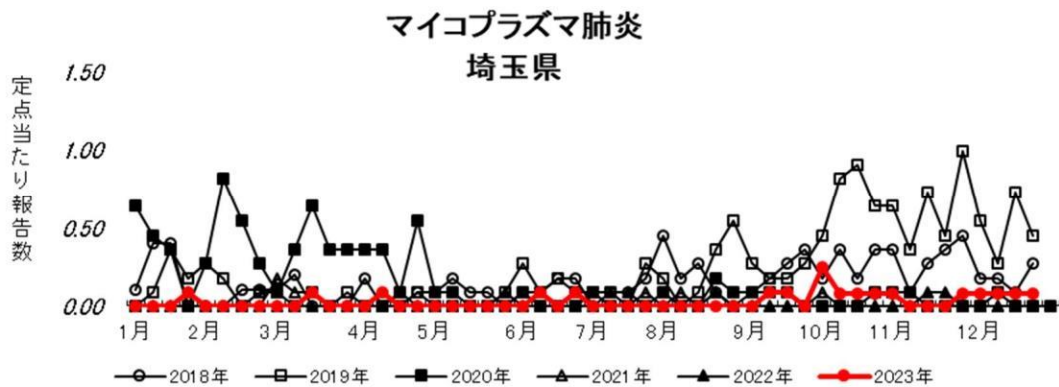
図Ⅱ-15-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：無菌性髄膜炎）

### 3) マイコプラズマ肺炎

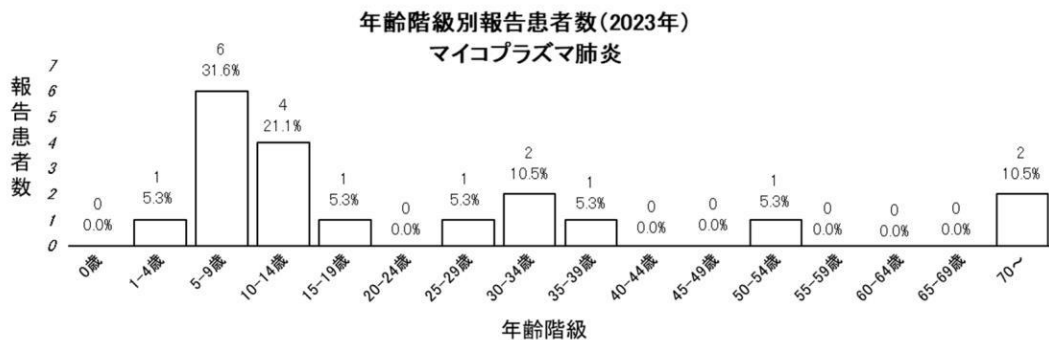
2023年の第1週～52週の累積報告患者数は19人であった。定点当たり報告患者総数1.70は前年と比べ増加した。報告は断続的で、1人以上の報告があった週が17週あった。年齢階級別では5-9歳が6人で最も多く、次いで10-14歳が4人で多かった。20歳未満が全体の63.2%であった。



図Ⅱ-16-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：マイコプラズマ肺炎）



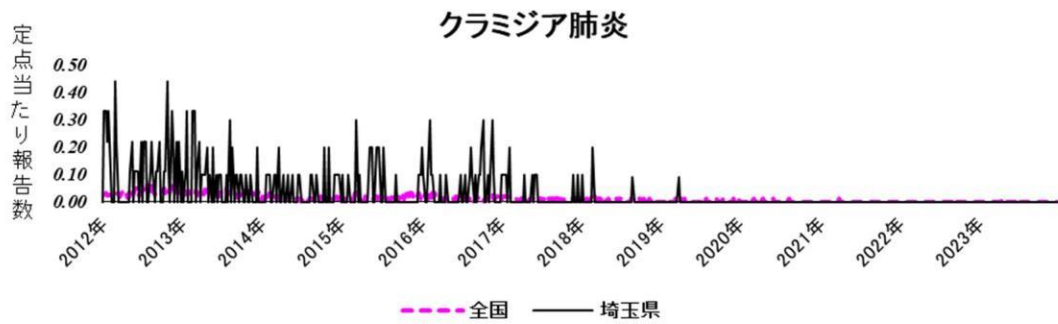
図Ⅱ-16-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：マイコプラズマ肺炎）



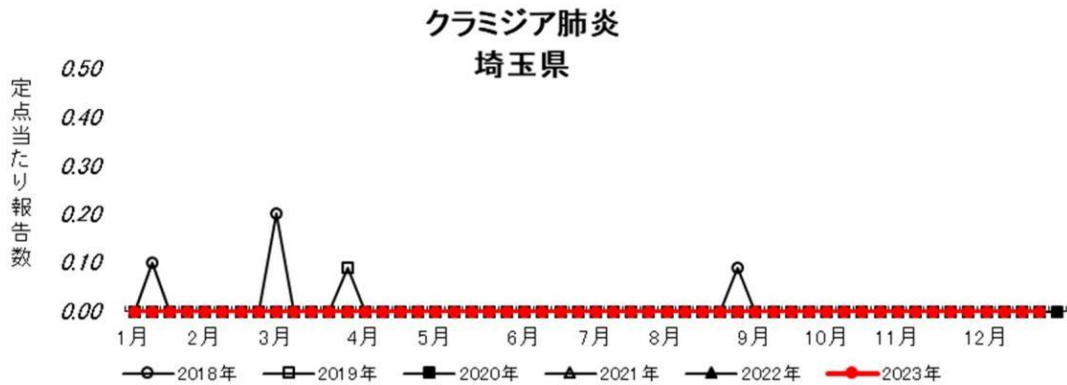
図Ⅱ-16-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：マイコプラズマ肺炎）

#### 4) クラミジア肺炎

2023年第1週～52週の患者の報告はなかった。報告患者数は2018年が4人、2019年が1人で、2020年以降は報告がない。



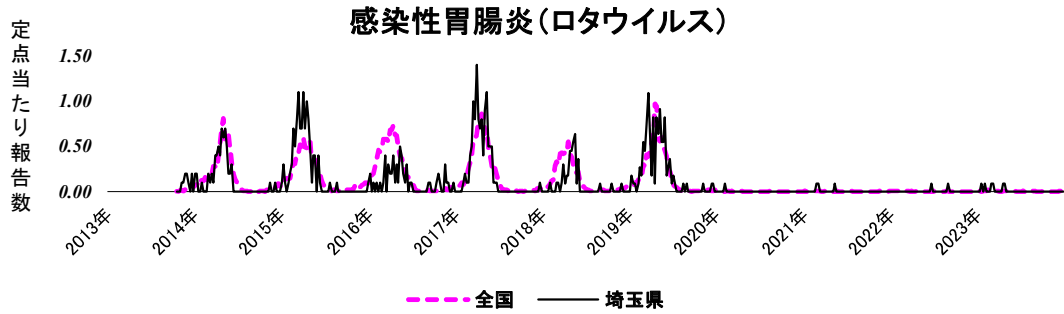
図Ⅱ-17-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：クラミジア肺炎）



図Ⅱ-17-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：クラミジア肺炎）

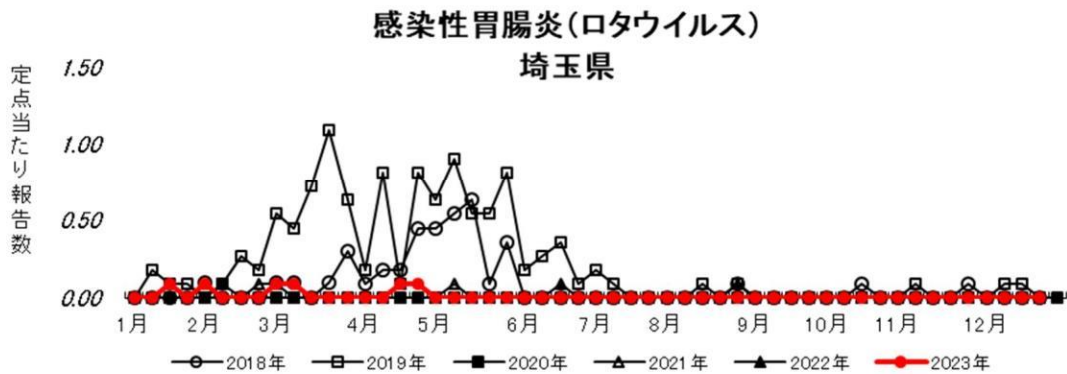
### 5) 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

2023年の第1週～52週の累積報告患者数は6人であった。定点当たり報告患者総数0.54は前年と同水準で、1月から5月にかけて患者が報告されたものの、流行は確認されなかった。報告患者数は5-9歳が3人、0歳が2人、1-4歳が1人であった。

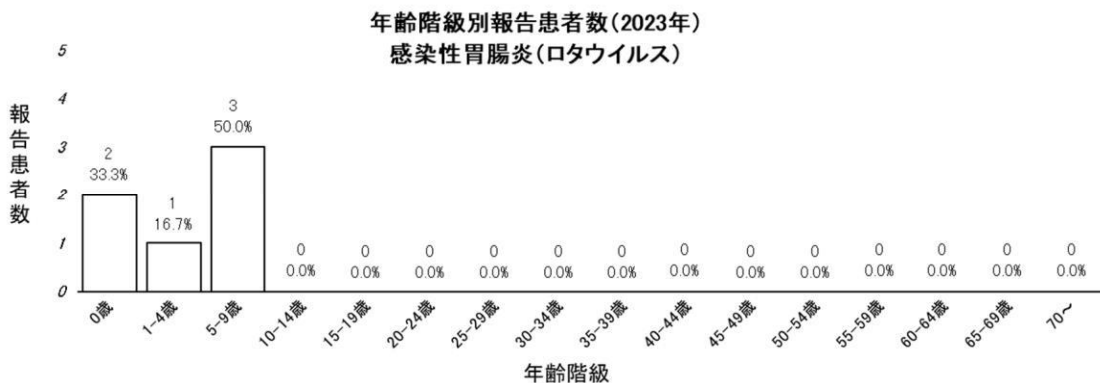


図Ⅱ-18-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：感染性胃腸炎（ロタウイルス））

2013年第42週から報告対象疾患となった。



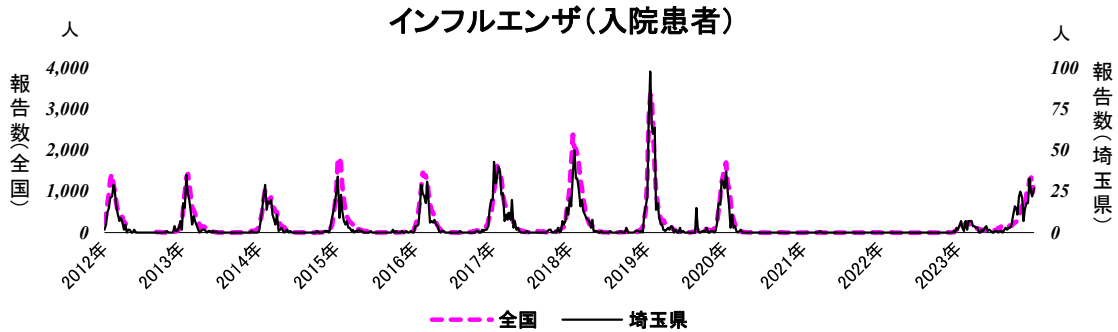
図Ⅱ-18-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：感染性胃腸炎（ロタウイルス））



図Ⅱ-18-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：感染性胃腸炎（ロタウイルス））

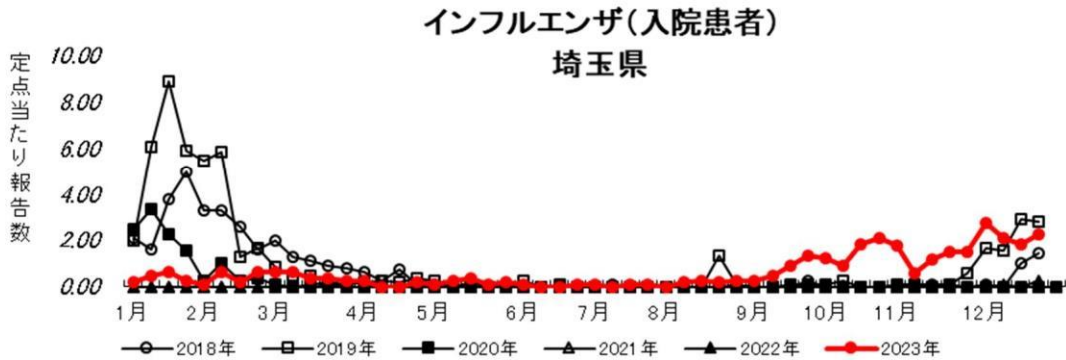
## 6) インフルエンザ（入院患者）

2023年第1週～52週の累積報告患者数は382人であった。定点当たり報告患者総数34.11は前年と比べ著しく増加した。2022-2023シーズンの報告数は、前年12月から5月まで多い状況が続いた。2023-2024シーズンはシーズン開始当初から3人の報告があった。9月中旬から増加し始め、定点当たり報告数の最大値2.75は、第49週（12/4-10）に観察された。年齢階級別では、10歳未満が40.8%、70歳以上が28.8%であった。

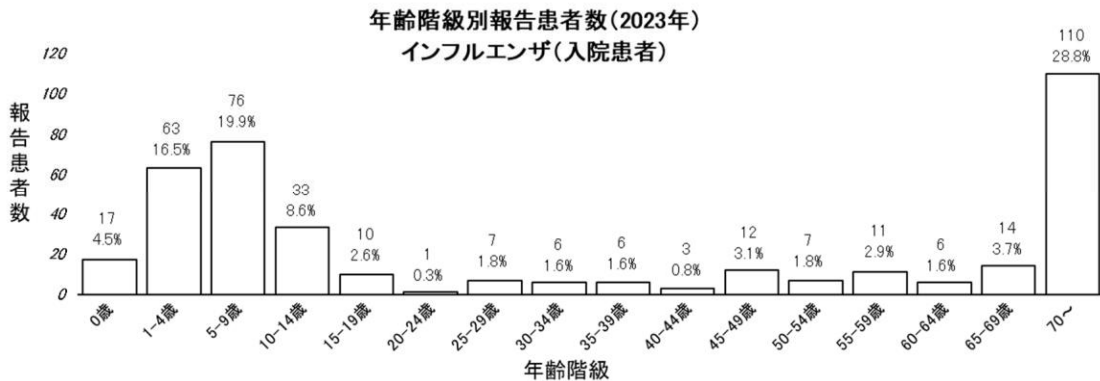


図Ⅱ-19-1 報告患者数の年推移（全国比較：インフルエンザ（入院患者））

全国の情報で定点当たり報告数の還元情報がないため、報告患者数を用いた。2012年第17週～35週は全国の情報還元はなかった。



図Ⅱ-19-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：インフルエンザ（入院患者））

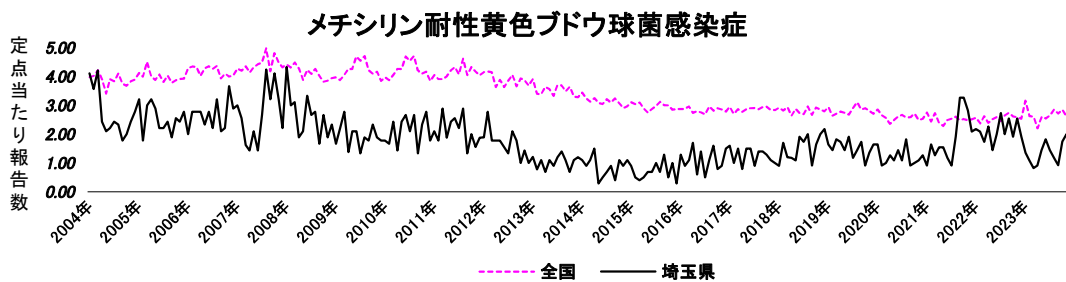


図Ⅱ-19-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：インフルエンザ（入院患者））

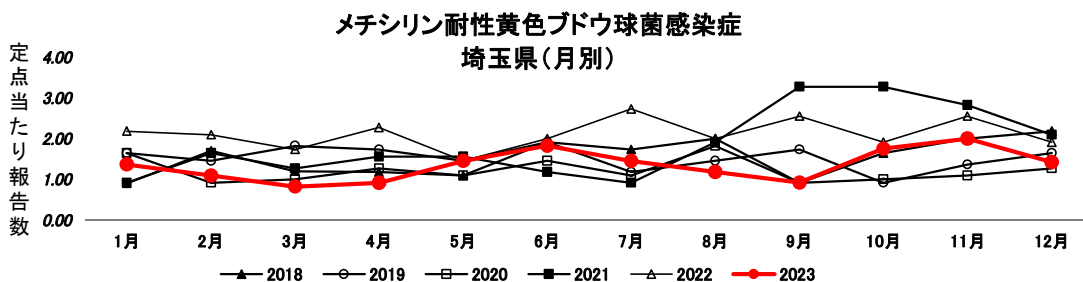


### 7) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

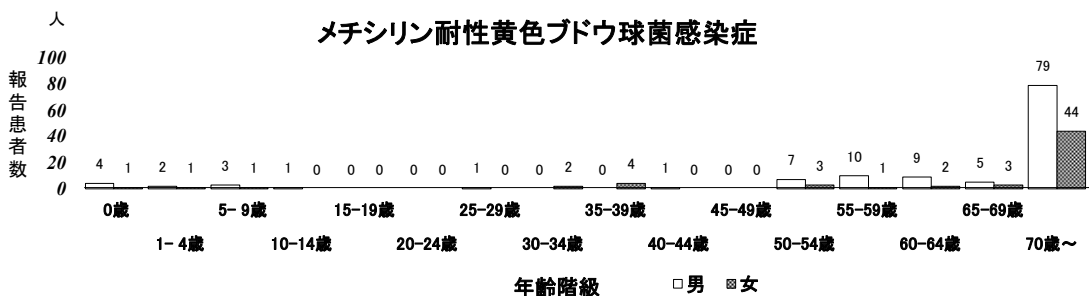
2023年1月～12月の累積報告患者数は184人であった。定点当たり報告患者総数16.28は前年に比べ減少した。年間を通して患者報告はあり、定点当たり報告数は最小値0.82、最大値2.00の範囲で推移した。最大値は前年の最大値2.73を下回った。年齢階級別では、70歳以上が123人（男性：79人、女性：44人）で最も多く、全体の66.8%であった。



図Ⅱ-20-1 定点当たり報告患者数の年推移  
(全国比較：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)



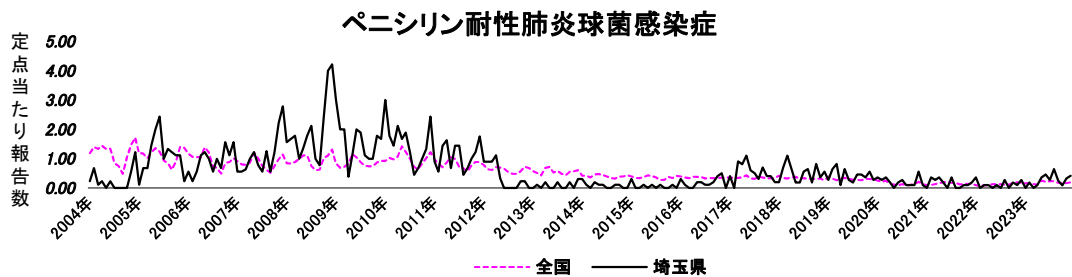
図Ⅱ-20-2 定点当たり報告患者数の推移  
(埼玉県：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)



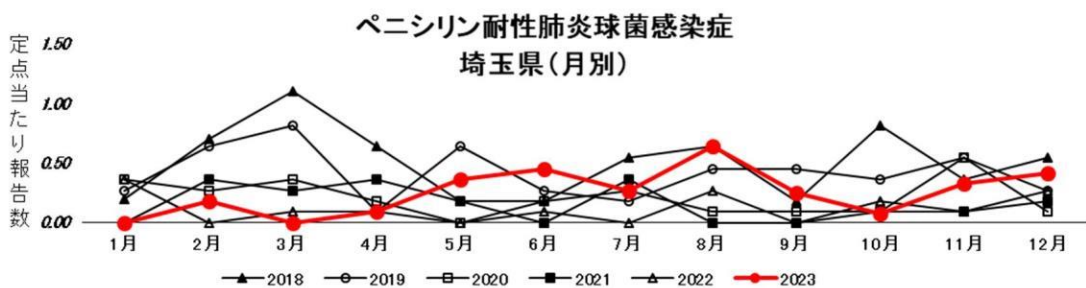
図Ⅱ-20-3 年齢階級別報告患者数  
(埼玉県：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)

### 8) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

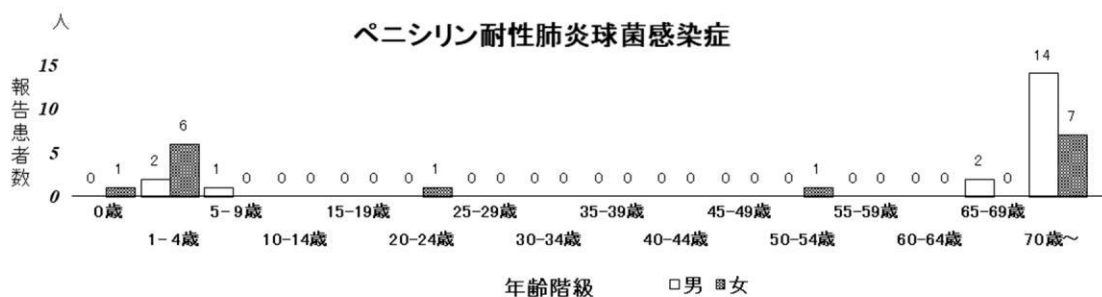
2023年1月～12月の累積報告患者数は35人であった。定点当たり報告患者総数3.10は前年と比べ大きく増加した。報告は年間を通して断続的に観察され、定点当たり報告数は最小値0.00、最大値0.64の範囲で推移した。最大値は前年の最大値0.36を上回った。年齢階級別では、70歳以上が21人（男性：14人、女性：7人）で、全体の6割を占めた。



図Ⅱ-21-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症）



図Ⅱ-21-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症）

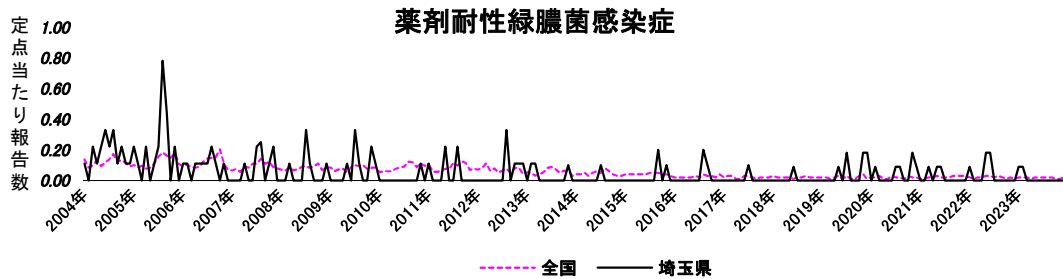


図Ⅱ-21-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症）

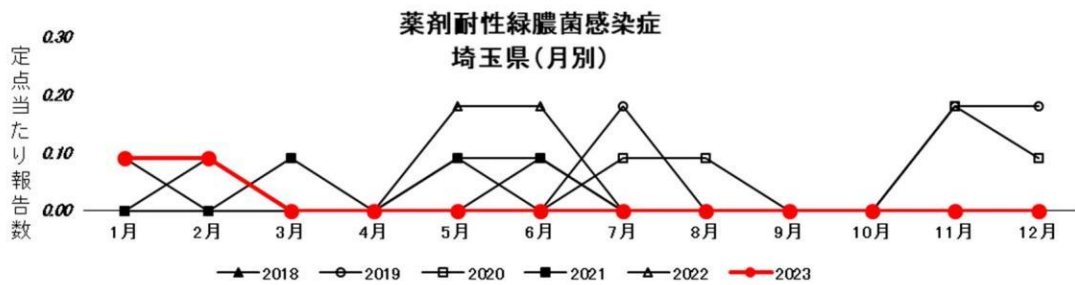


### 9) 薬剤耐性緑膿菌感染症

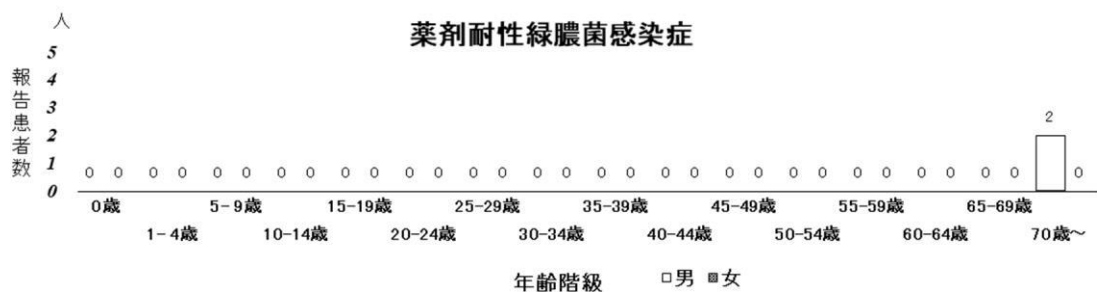
2023年1月～12月の累積報告患者数は男性2人であった。定点当たり報告患者総数0.18は前年に比べわずかに減少した。報告は1月及び2月に各1人で、定点当たり報告数の最大値0.09は、前年の最大値を下回った。年齢階級別では、70歳以上が2人であった。



図Ⅱ-22-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：薬剤耐性緑膿菌感染症）



図Ⅱ-22-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：薬剤耐性緑膿菌感染症）



図Ⅱ-22-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：薬剤耐性緑膿菌感染症）